

数字で見る “情シス”の実像 2025

「情報システムの現状とIT活用実態アンケート 2025」調査結果の概要

```
mirror_mod.use_y = True  
mirror_mod.use_z = False  
elif operation == "MIRROR Z":  
    mirror_mod.use_x = False  
    mirror_mod.use_y = False  
    mirror_mod.use_z = True  
  
#selection... add back the  
mirror_ob.select...  
modifier_ob.select...  
bpy.context.scene.objects.active...  
print("Selected... str(modifier_ob))  
...baselect...  
...context... for...  
...
```

情シスレスキュー隊



はじめに

ソフトクリエイイトでは2024年12月から2025年1月にかけて、「情報システムの現状とIT活用実態アンケート2025」として、企業・団体等でITシステムの導入や運用・管理などに携わる情報システム部門（情シス）の担当者の実態アンケートを実施しました。

設問は、「1 情報システム部門の運営状況」、「2 クラウドの利用状況」、「3 セキュリティ対策」、「4 新しいITの活用や新しい働き方について」というカテゴリに分けられ、それぞれの分野に特筆すべき事項が見られました。

本レポートでは、577件の回答結果の概要をご紹介しますとともに、これまでの調査結果とも合わせて企業のIT活用状況や情シスの働き方の実態などの変化について取り上げています。この調査結果を1つの「道標」として、2025年度に取り組むべき課題や新しい働き方に向けた情シスのあり方について考えてみてはいかがでしょうか。

目次

エグゼクティブサマリー 3

1 情報システム部門の運営状況について 4

2 クラウドの利用状況について 7

3 セキュリティ対策について 9

4 新しいITの動向や働き方について 12

調査概要

- アンケート名 ● 情報システムの現状とIT活用実態アンケート 2025
- 調査集計期間 ● 2024年12月23日～2025年1月14日
- 調査手法 ● 自社ハウスDB上でのオンラインパネル調査
- 調査対象者 ● 自社リード（「立場」情報に“協業・売り込み”、“販社・パートナー”、“その他”を含まない、マーケティングメール受信許可リード）n=577 ※ソフトクリエイイト関係者はすべて除外
- 調査企画 ● 株式会社ソフトクリエイイト／ブリッジインターナショナル株式会社
- 調査実施 ● 株式会社ソフトクリエイイト

本文中の他年度の「情報システムの現状とIT活用実態アンケート」について

- 2023年度アンケートは、2023年12月～2024年1月に実施 n=529
- 2022年度アンケートは、2022年12月～2023年1月に実施 n=598
- 2021年度アンケートは、2021年12月～2022年1月に実施 n=554
- 2020年度アンケートは、2020年12月～2021年1月に実施 n=522
- 2019年度アンケートは、2020年1月に実施 n=867
- 2018年度アンケートは、2018年9～10月に実施 n=550
- ※ P12「2024年6月」は「生成AI活用に向けた情報システム部門の意識調査 2024」n=434

本資料で用いている「コア業務」「ノンコア業務」について

■ コア業務 / バリュー・アップ・ビジネス

「攻めの業務」とも呼ばれる、企業のビジネスを促進する業務。ここでは主に、IT戦略策定支援、ITシステム・インフラ策定計画、セキュリティ戦略、コンプライアンス対策、BCP対策などを指す。

「バリュー・アップ・ビジネス」領域の業務とは、経済産業省『DXレポート』に登場する語で、DXなどビジネス価値向上のためのIT業務を指す。本資料では、コア業務とほぼ同義で用いる。

■ ノンコア業務 / ラン・ザ・ビジネス

「守りの業務」とも呼ばれる、日々の運用管理、問い合わせ対応業務、ヘルプデスク、社内システム運用管理、PC管理、システム監視、障害対応などを指す。

「ラン・ザ・ビジネス」領域の業務とは、経済産業省『DXレポート』に登場する語で、現行ビジネスを維持・運営するためのIT業務を指す。本資料では、ノンコア業務とほぼ同義で用いる。

エグゼクティブサマリー

総評

情シス体制「5名以上」が増加傾向、情シスは社内育成に注力。
ランサムウェアは今年度も増加傾向、猛威が続いている。

注力業務は「セキュリティ強化」、「コア業務の強化」、
25年に取り組みたいのは「DX推進」、「Windows 11 移行」。

Topics

1. 情報システム部門の運営状況について

- 情シスの運用・保守体制は「5人以上」が36%、10年間で5%以上増加
- 最も時間を使う情シス業務「情シス人材育成・教育」が11%に急増
- 情シス人材不足対策として「社内育成」が32%で最多
- 注力活動1位「セキュリティ強化」、2位「コア業務の強化」、3位「IT人材づくり」

2. クラウドの利用状況について

- オンプレミス中心の企業は初の20%台に減少、フルクラウドは14%
- 「シャドー ITがある」は13%

3. セキュリティについて

- ランサムウェア被害拡大、3年間で10%以上も増加
- セキュリティ体制・運用面の課題「専門知識不足」、「人材不足」が4割以上
- Active Directory 利用は63%、Entra ID利用は31%

4. 新しいITの取り組み、新しい働き方について

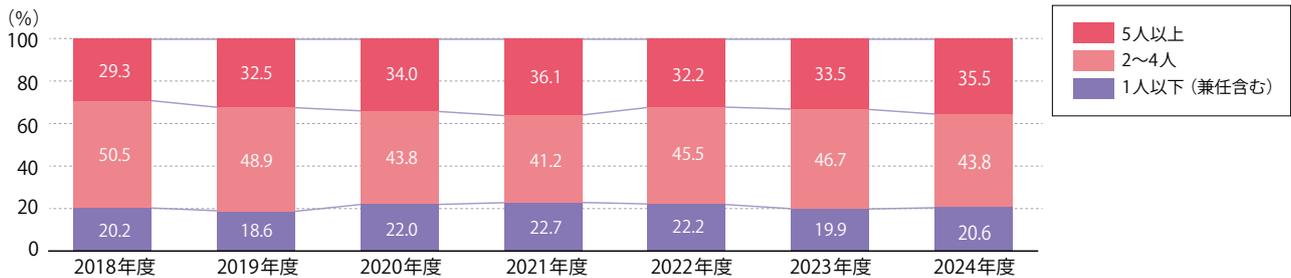
- 生成AI「既に活用」「プロジェクト進行中」はそれぞれ約2割に増加
- 生成AIの懸念点「社員の情報リテラシーが十分ではなく事故が怖い」が最多
- Windows 11 への移行完了企業は21%
- 新たな取り組み1位「DX推進」で約5割、2位「Windows 11 への移行」、3位「生成AI活用」

情シス「5人以上」の企業が増加傾向、 人材不足対策には社内育成が突出

2024年度、情シスの体制や業務、注力したいテーマはどのように変化したのでしょうか。本章では、本年度の情シスの運営状況の調査結果を紹介するとともに、これまでの推移と合わせて振り返ります。

情シス「5人以上」が増加傾向、「2～4人」はやや減少

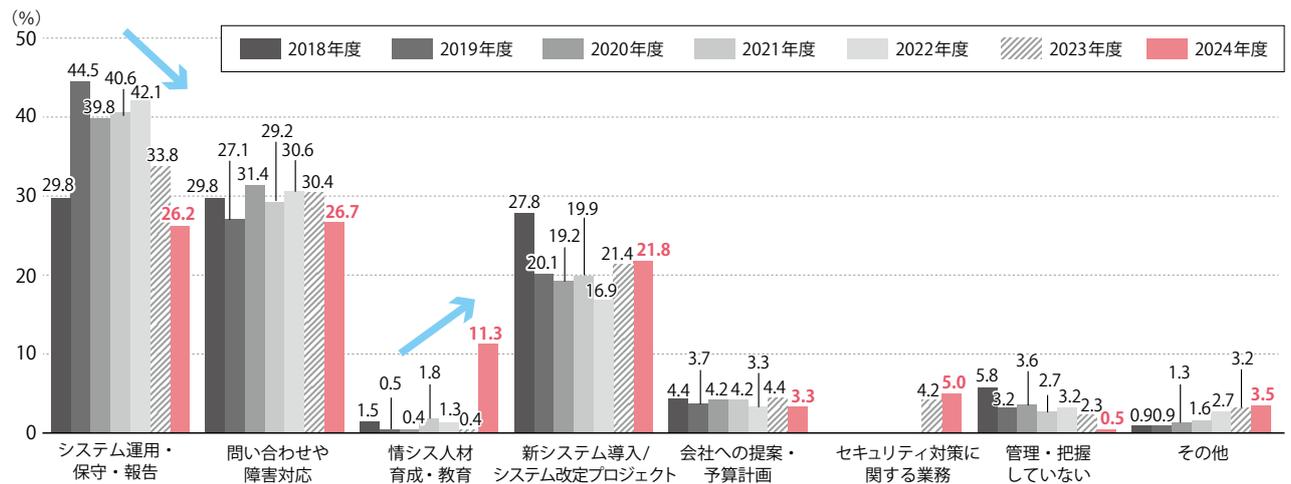
図1 現在の情報システム部門の運用・保守についての体制



情シスの運用・保守体制は「5人以上」が35.5%、「2～4人」が43.8%、「1人以下」は20.6%という結果でした。注目したいのが、「2～4人」が減少するとともに「5人以上」が増加する傾向があるという点。もともと複数人数体制だった社内の情シス人員を、さらに増やしている企業が多いことが伺えます。一方、「1人以下」情シス体制はあまり大きな変化なく推移している結果となりました。

情シス業務の上位は「運用保守」「問い合わせ」、注目は急上昇の「人材育成・教育」

図2 最も時間を使っている情報システム業務

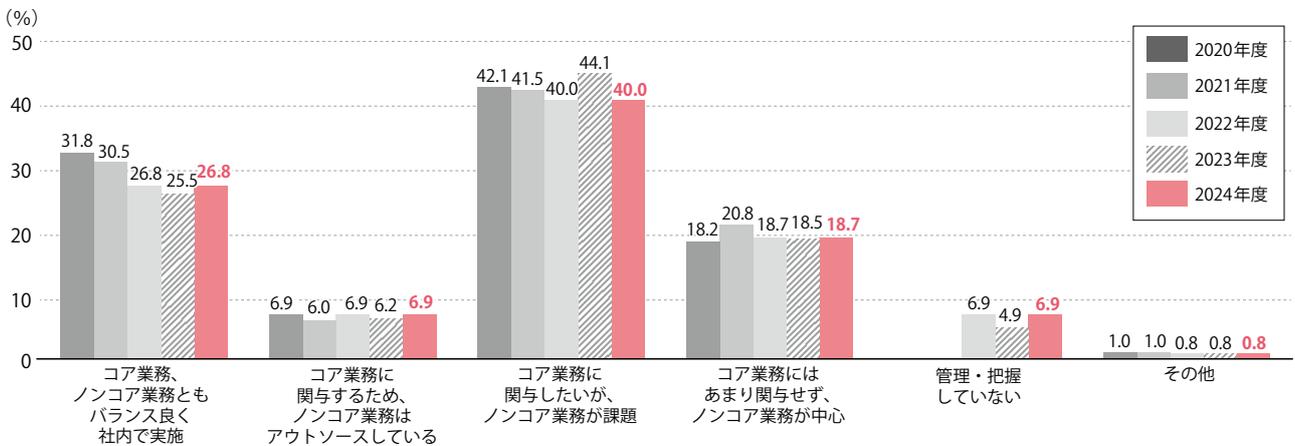


最も時間を使っている情シス業務の上位は、「問い合わせや障害対応」が26.7%、「システム運用・保守・報告」はここ3年ほど減少傾向にあり26.2%、「新システム導入/システム改定プロジェクト」が21.8%で、上位は例年とは変わりませんでした。

その中で大きく伸びているのが「情シス人材育成・教育」の11.3%で、ここ数年の推移から急激に10%近く増加し過去最多という結果になりました。

「ノンコアが課題」が最多で40%、「コア・ノンコアともバランス良く」が27%

図3 コア業務、ノンコア業務の状況



情シス業務での「コア業務※1」と「ノンコア業務※2」の動向を見てみましょう。「コア業務に関与したいが、ノンコア業務が課題」が今回も最多で40.0%。次いで「コア業務、ノンコア業務ともバランス良く社内で実施」が26.8%。「コア業務にはあまり関与せず、ノンコア業務が中心」は18.7%で、大きな変化があまり見られない結果となりました。

※1：コア業務：バリュー・アップ・ビジネス＝主に、ビジネスに価値をもたらすIT活用に関わる業務
 ※2：ノンコア業務：ラン・ザ・ビジネス＝主に、ビジネスを維持するためのIT運用に関わる業務

情シス人材不足は73.5%、対策として最多は「社内で育成」の32.1%

図4 情シス人材に不足を感じるか

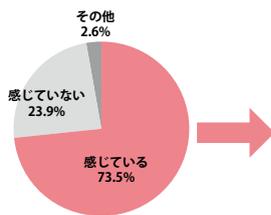
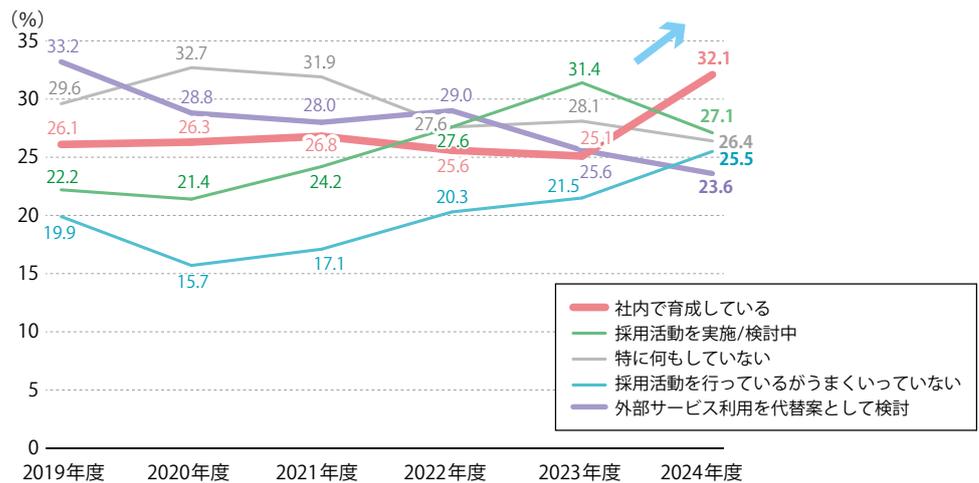


図5 情シス不足を感じる企業の実情（複数回答） ※図4の設問で「感じている」と回答したn=424



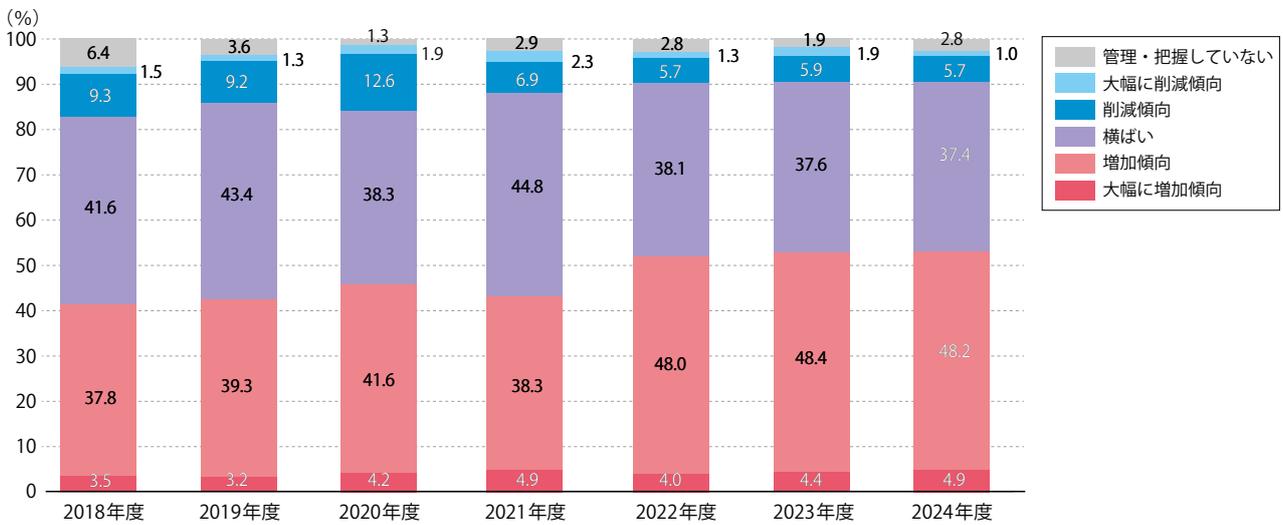
情シス不足を「感じている」は73.5%。現在も4社に3社は情シス不足を感じている状況です。この情シス不足を「感じている」企業のうち、情シス人材に関する実情を聞きました。

今回、大きな伸びを見せ1位になったのが「社内で育成している」で32.1%。これまで以上に情シス育成に力を入れている企業の実態が伺えます。

2位が「採用活動を実施/検討中（27.1%）」で昨年より減少している結果となりました。一方、「採用活動を行っているがうまくいっていない」が25.5%に増加していることから、情シスの採用より育成へとシフトしていると考えられます。

ITシステム投資「増加＋大幅に増加」は約53%に上り過去最多に

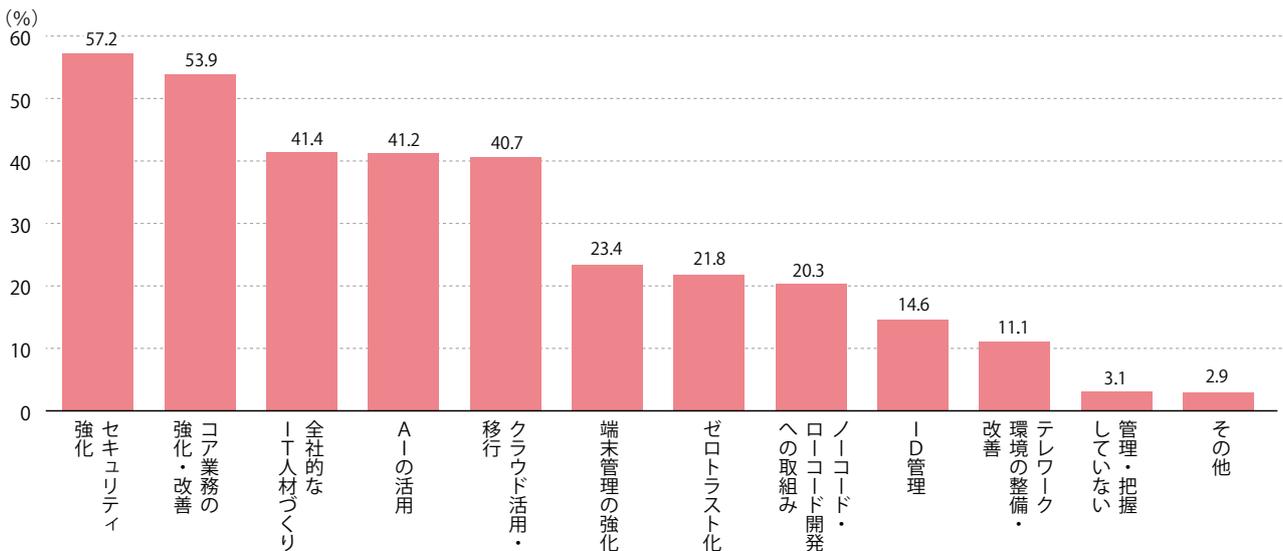
図6 自社のITシステム投資の傾向



自社のITシステムに対する投資は、「増加傾向(48.2%)」と「大幅に増加傾向(4.9%)」を合わせると約53%で過去最多の結果となりました。「横ばい」を含めると、9割以上の企業が現状維持以上のITシステム投資を行っていることがわかりました。DX推進をいよいよ本格化し始める、新たにAI活用を行う、セキュリティ対策を見直す、クラウドへの移行を進めるなど、多方面での取り組みが必要な現状から、IT投資増加は不可欠という背景があるのではないのでしょうか。

注力すべき活動、「セキュリティ強化」、「コア業務の強化・改善」が過半数に

図7 情シスが今後、注力すべきと考えている(注力している最中の)活動(複数回答)



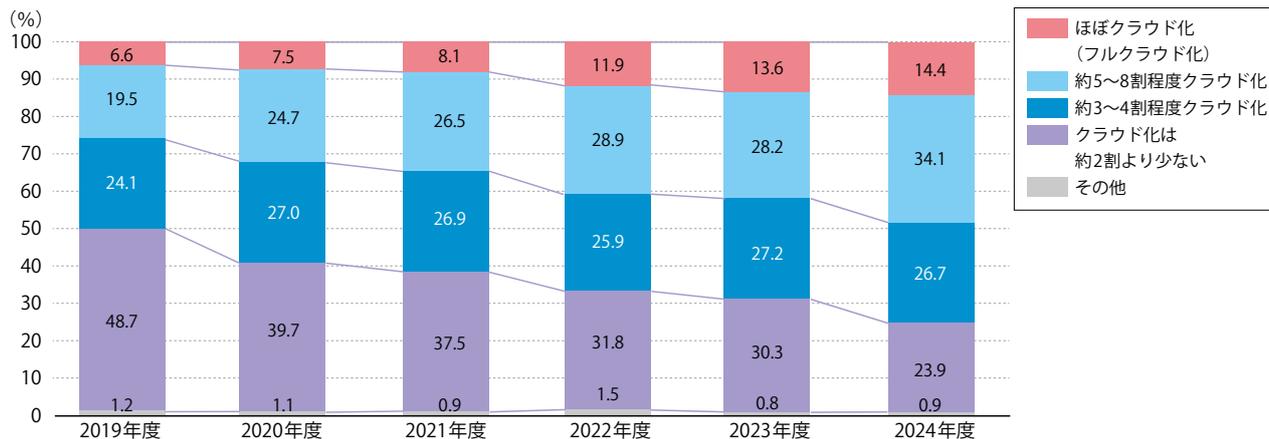
情シスが今後、注力すべきと考える活動は「セキュリティ強化(57.2%)」、「コア業務の強化・改善(53.9%)」が5割を超え、突出して他より高い結果となりました。ほかにも4割を超えていたのが「全社的なIT人材づくり」「AIの活用」「クラウド活用・移行」となりました。これからの時代に向けて、情シスが注目したいと考えている優先順位が伺える結果となりました。

オンプレミスからの脱却さらに進む、情シスのSaaS管理には課題が残る

DX推進に取り組む企業にとって重要課題の1つであるのがクラウド化。この章では、クラウド化の動向や多くの企業に普及しているSaaS利用やその管理に関する調査結果をまとめました。

進むオンプレミス脱却。オンプレミス中心の企業は初の20%台に減少

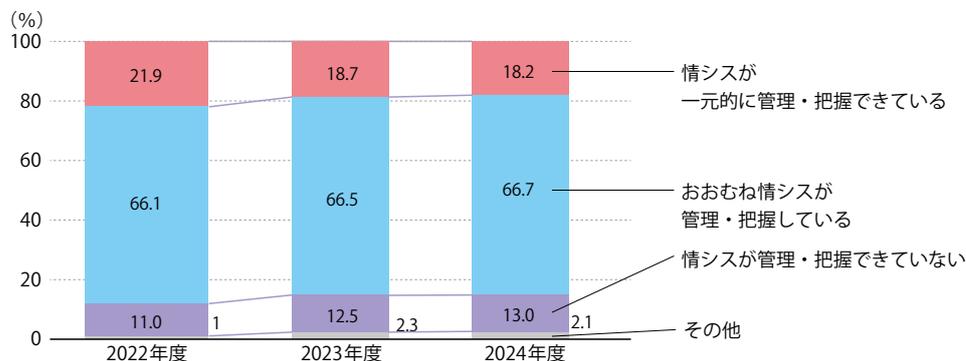
図8 クラウドサービス利用状況



クラウドサービス利用の割合は年々増加しています。今回の調査結果では「クラウド化は約2割より少ない」は23.9%と過去最少を更新しています。一方、「ほぼクラウド化」は14.4%、「約5~8割程度クラウド化」は34.1%と、クラウド化が大半を占める割合は大きく伸びました。

社内SaaSを「おおむね情シスが管理・把握している」は66.7%

図9 情シスによる社内のSaaS利用の管理・把握状況



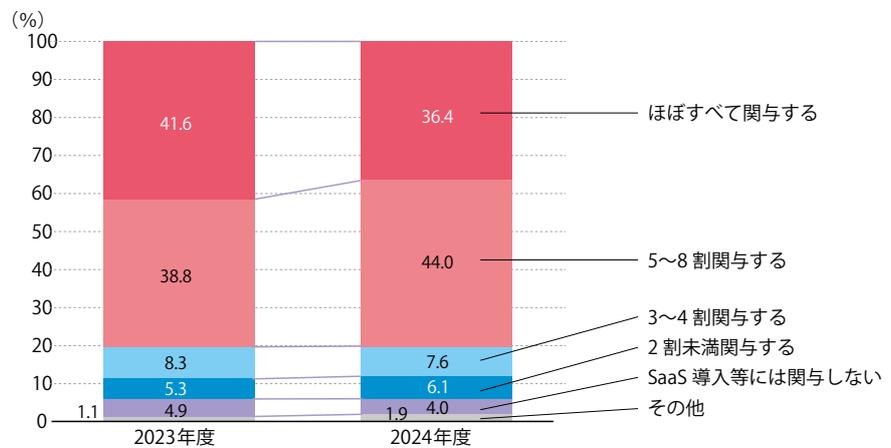
情シスによる社内のSaaS利用の管理・把握状況は、「情シスが一元的に管理・把握できている」は18.2%、「おおむね情シスが管理・把握している」が66.7%、「情シスが管理・把握できていないクラウド利用 (シャドー IT) がある」は13.0%となりました。

ほぼ情シスがSaaSを把握している状況ではありますが、依然として1割程度はシャドー ITがあるという結果になりました。

社内でのSaaS導入、情シスが「ほぼすべて関与」は減少傾向

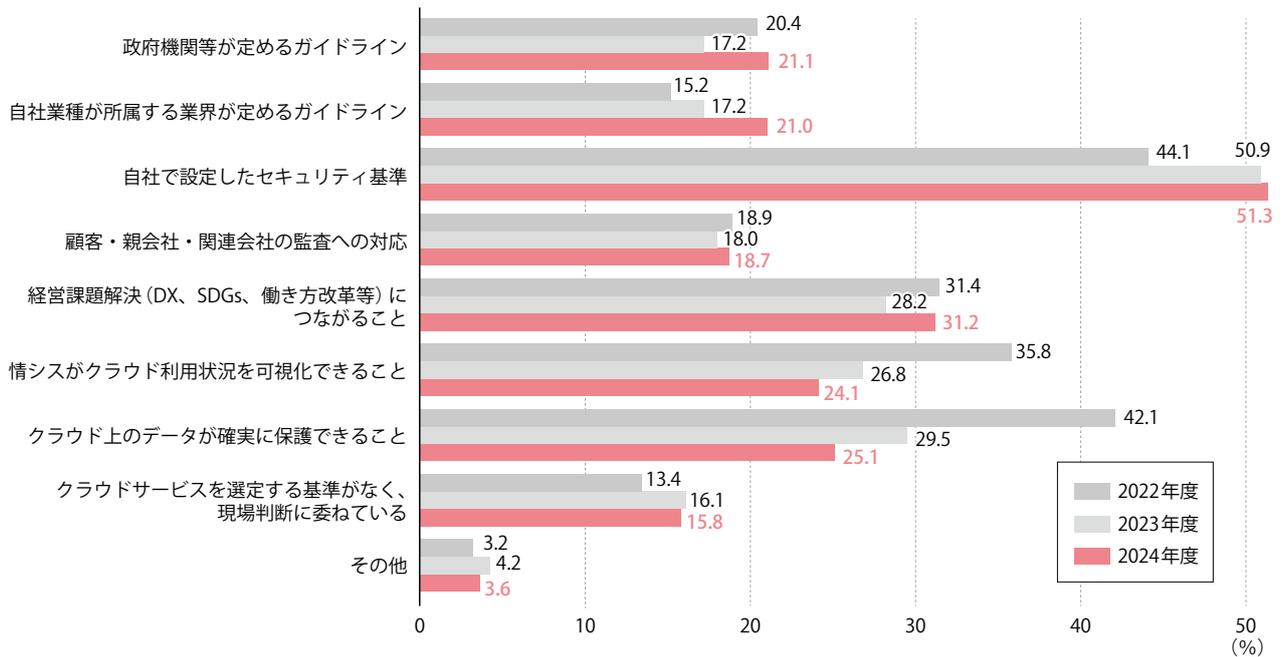
社内でSaaS導入・導入検討の際に、情シスがどのくらい関与するのかを聞いたところ、「ほぼすべて関与する」が36.4%、「5～8割関与する」が44.0%という結果となり、昨年に比べ「ほぼすべて関与する」情シスの割合が減っていることがわかりました。一方、「SaaS導入等には関与しない」は昨年と同様4.0%でした。

図10 社内でSaaS導入検討・導入する際の、情シスの関与状況



「自社で設定したセキュリティ基準」をもとにSaaSを選定する企業が半数で推移

図11 SaaS選定時の検討基準（複数回答）



SaaS選定時の検討基準について、3年連続で「自社で設定したセキュリティ基準 (51.3%)」が1位となりました。2位は「経営課題解決につながること (31.2%)」で、SaaS導入がビジネスにプラスとなることを目的に選定している企業が増えています。

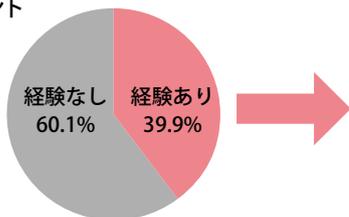
一方、これまで高かった「クラウド上のデータが確実に保護できること (25.1%)」は減少傾向にあり、クラウドへの不安感や不信感を持つ企業は少なくなっているように見えます。また、「情シスがクラウド利用状況を可視化できること (24.1%)」も減少し、情シスが関与せずにSaaSを活用するシーンが増えていることも考えられます。クラウド利用時のセキュリティ意識も少しずつ変化しているのかもしれませんが。

依然として猛威を振るうランサムウェア、セキュリティ課題は専門不足・人材不足

サイバー攻撃の脅威はまだまだ衰えず、ランサムウェア被害に代表されるセキュリティインシデントの被害に遭う企業も少なくありません。こうした中で、企業はどのようにセキュリティ対策を行っているのか、実態を調査しました。

拡大するランサムウェア被害、3年間で10%以上も増加

図12 セキュリティインシデント経験の有無



セキュリティインシデント「経験あり」の企業にその内容を聞いたところ、1位は「クライアントPCのウィルス感染 (50.9%)」、2位は「ランサムウェア感染 (32.2%)」、3位は「サーバ・社内システムのウィルス感染・不正アクセス (28.7%)」という結果となりました。

この中でも特に注目したいのが「ランサムウェア攻撃」の推移です。ここ10年ほど、大きな脅威として注意が呼びかけられていますが、セキュリティインシデントの中でもその被害は増加傾向にあります。2022年からの結果を見ると、3年間で10%以上も増加し、未だに最も注意すべき攻撃といえます。

図13-1 セキュリティインシデント経験の内容

※図12の設問で「経験あり」と回答したn=230

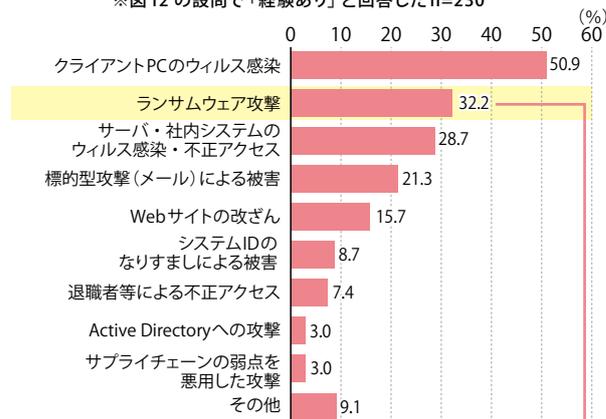
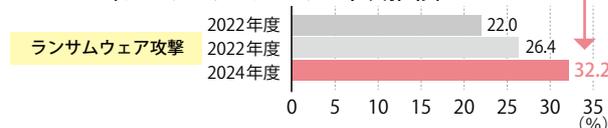


図13-2 セキュリティインシデント経験の内容 (ランサムウェアのみ・年次推移)

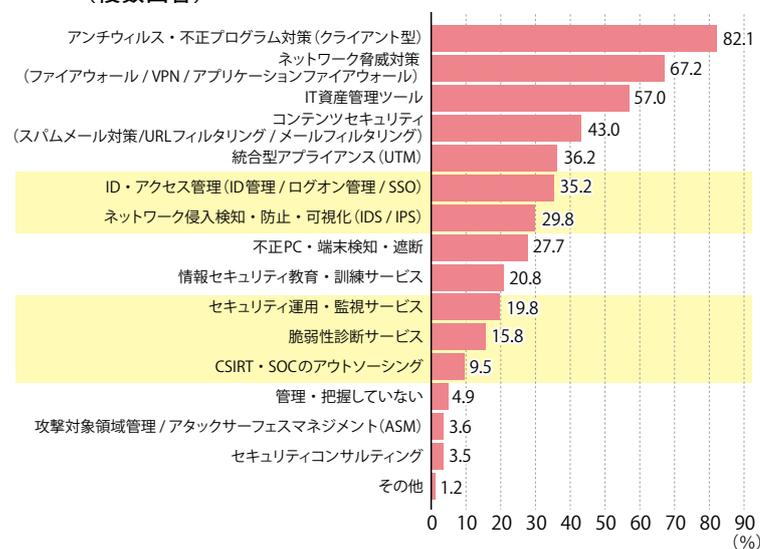


アンチウイルス対策は8割、新たな脅威への対策は少しずつ増加

企業が利用しているセキュリティ製品・サービスを見ると、「アンチウイルス・不正プログラム対策 (82.1%)」、「ネットワーク脅威対策 (67.2%)」が突出した結果となっています。一方、注力したいのが、ランサムウェアや標的型攻撃など新たな脅威に備えるための対策です。

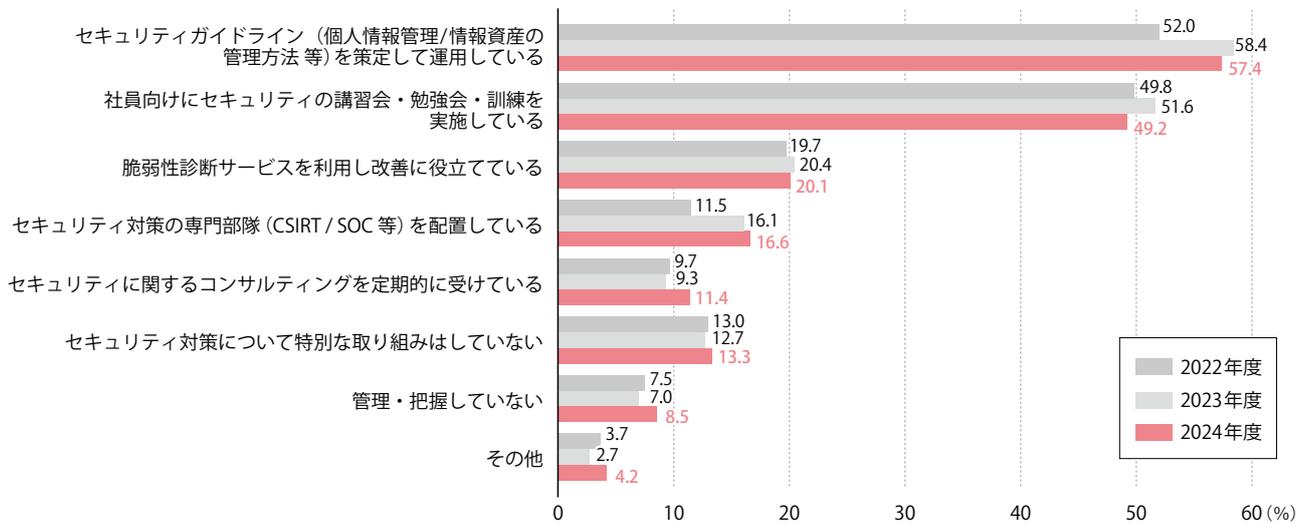
ゼロトラストを見据えた「IDアクセス管理」、侵入に備える「ネットワーク侵入検知・防止・可視化」、外部の知見を活用する「セキュリティ運用・監視サービス」や「脆弱性診断サービス」「CSIRT・SOCのアウトソーシング」などがその代表的なサービスでしょう。こうした対策を実施することで、新たな脅威に備えようとしているのではないのでしょうか。

図14 現在、自社で利用しているセキュリティ対策製品・サービス (複数回答)



セキュリティ運用の体制に大きな変化は見られず

図15 セキュリティ対策の体制について(複数回答・抜粋)

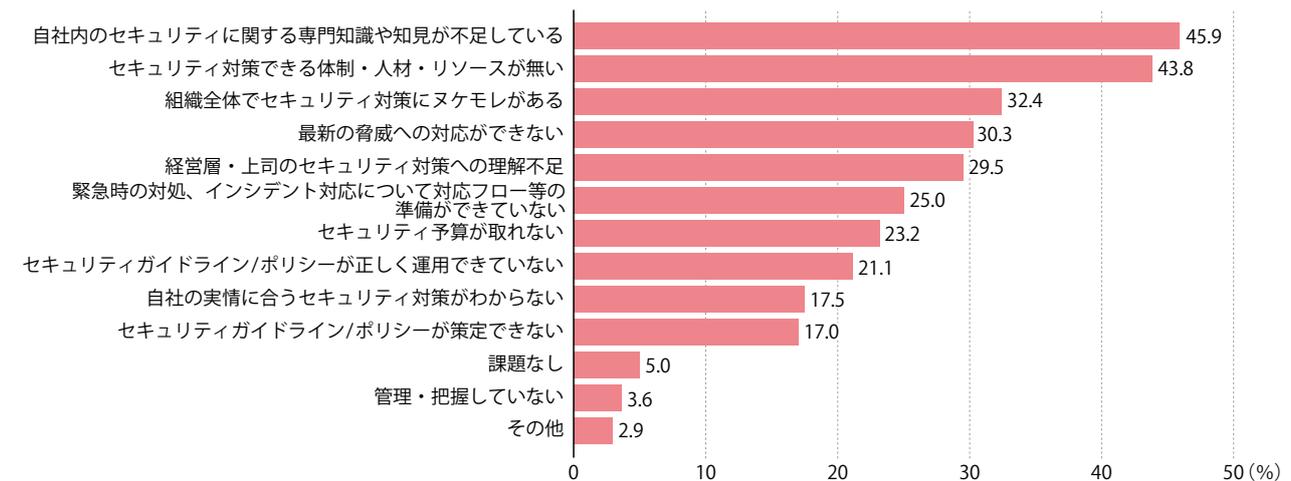


セキュリティ対策の体制について近年の動向を見てみましょう。上位の「セキュリティガイドラインを策定して運用している(57.4%)」、「社員向けにセキュリティの講習会・勉強会・訓練を実施している(49.2%)」は昨年度までと大きな変化がない結果となりました。

ほかに、「セキュリティ対策の専門部隊(CSIRT/SOC等)を配置している」や「セキュリティに関するコンサルティングを定期的に受けている」には増加傾向が見られます。

セキュリティ専門知識不足、人材不足が「体制、運用面」での大きな課題

図16 セキュリティ対策における「体制、運用面」での課題(複数回答)



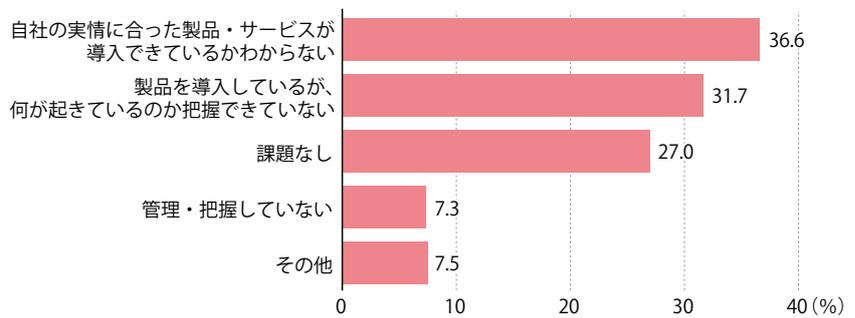
セキュリティ対策の体制と運用面での課題を見てみましょう。最多が「専門的な知識や知見が不足(45.9%)」、2位が「セキュリティ対策できる体制・人材・リソースが無い(43.8%)」、3位が「組織全体でセキュリティ対策にヌケモレがある(32.4%)」という結果になりました。

4位の「最新の脅威への対応ができない(30.3%)」もまた、知識不足や人員不足とも関連していると考えられることから、多くの企業は自社内だけでは十分なセキュリティ対策が困難な実情があるのではないのでしょうか。

セキュリティ対策製品・サービス「実情に合っているか不明」が37%

自社で利用しているセキュリティ対策製品・サービスについて「自社の実情に合っているかわからない」が最多の36.6%。「何が起きているのか把握できていない」も31.7%と高く、製品を導入しているものの、正しく対策できているのか不安を感じている企業も多いようです。

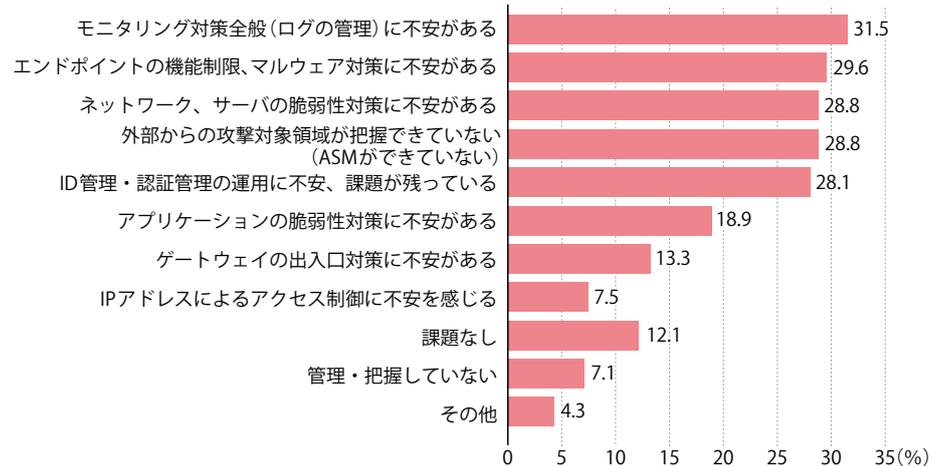
図17 自社で利用しているセキュリティ対策製品・サービスへの所感（複数回答）



セキュリティ製品の課題上位は「ログ管理」「マルウェア対策」「脆弱性対策」

セキュリティ対策製品・サービスへの課題として上位5位までが30%前後で並びました。いずれも重要な課題であることから、不安を感じながら取り組んでいることが考えられます。中でも、「モニタリング対策全般（ログの管理）（31.5%）」、「エンドポイントの機能制限、マルウェア対策（29.6%）」が特に不安を感じる項目として上位に入りました。

図18 セキュリティ対策製品・サービスへの課題（複数回答）

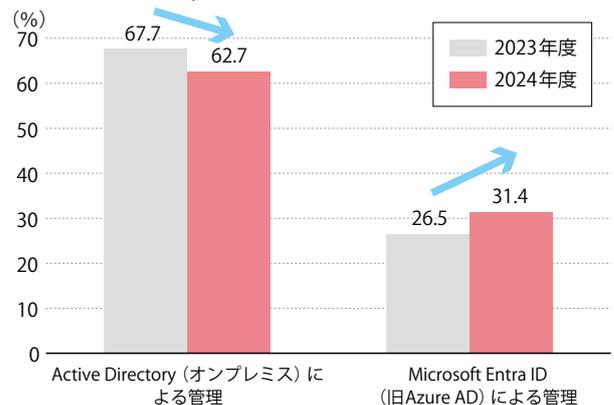


Active Directoryは5%減少、Entra ID利用は5%増加で3割を超える

現在、実施しているユーザ管理のうち Active Directory と Microsoft Entra ID に関する回答を抜粋しました。「Active Directory」は今年度は62.7%に減少、「Microsoft Entra ID」は31.4%に増加という結果となりました。今、Active Directory から Entra ID へと移行したり併用したりというケースが増えています。Windows 10 がサポート終了し Windows 11 へと移行が進む中で、デバイス管理の効率化を見据えて Entra ID への移行がさらに進むのではないのでしょうか。

図19 現在、実施しているユーザ管理（複数選択）

※ Active Directory と Microsoft Entra ID を抜粋

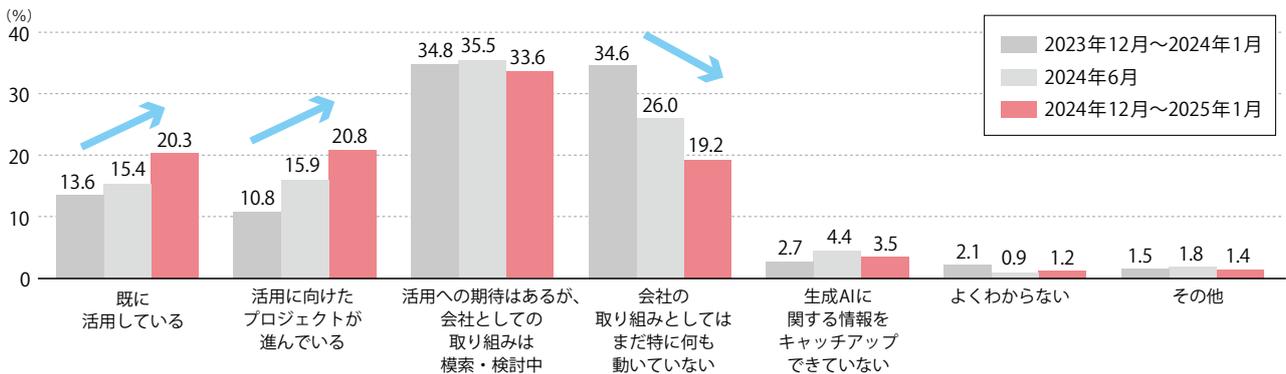


生成AIの普及が1年間で大きく進む、最新の取り組みはDX、OS移行が多数

生成AIのビジネスの現場への普及、Windows 10 のサポート終了、DX推進の加速など、情シスを取り巻くIT環境は変化が耐えません。この章では、新たな時代のITや働き方に対する、情シスの取り組みに関する調査結果を紹介します。

生成AI活用企業は2割、「何もしていない」は大きく減少

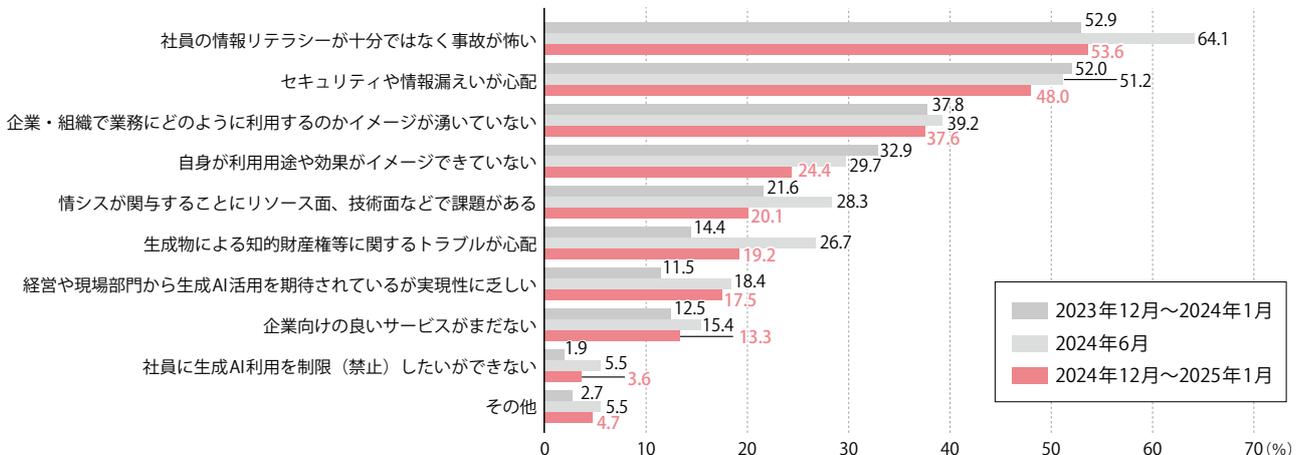
図20 生成AIの自社の活用・取組状況



生成AI活用・取り組み状況について、この1年間の調査結果を比較しました。「既に活用している」「活用に向けたプロジェクトが進んでいる」は順調に推移しそれぞれ約2割まで伸びています。また、「会社の取り組みとしてはまだ特に何も動いていない」は19.2%まで減少しています。このことから、生成AIに対して取り組んでいる企業が多数を占めていることがわかる結果となりました。

生成AI活用の懸念点、1位はリテラシー不足の事故、2位はセキュリティ対策

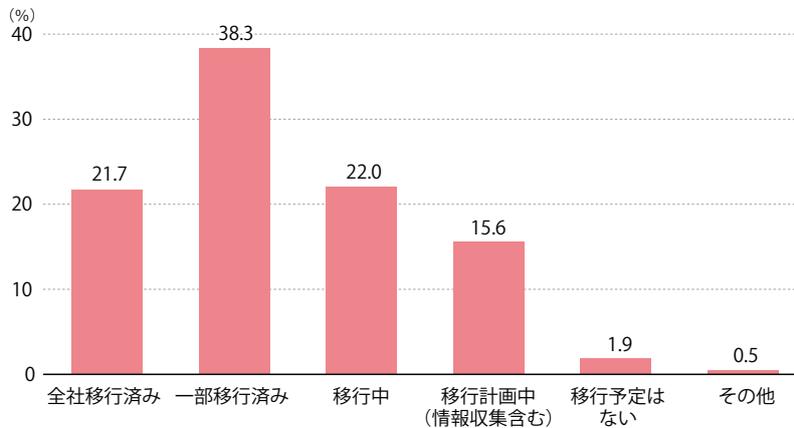
図21 情シスとして、生成AIを業務で利用する上での懸念点(複数回答)



生成AIを業務で利用する際の懸念点について、こちらこの1年間の推移を見てみましょう。最多となったのは「社員の情報リテラシーが十分ではなく事故が怖い(53.6%)」、次いで「セキュリティや情報漏えいが心配(48.0%)」でした。しかし、1年間で総じて懸念点は減っていることから、実際に利用したことで懸念点が解消されていることも考えられます。

Windows 11 への移行完了企業は21%、76%は移行PCが残っている

図22 Windows 11 への移行状況 (2024年12月~2025年1月時点)

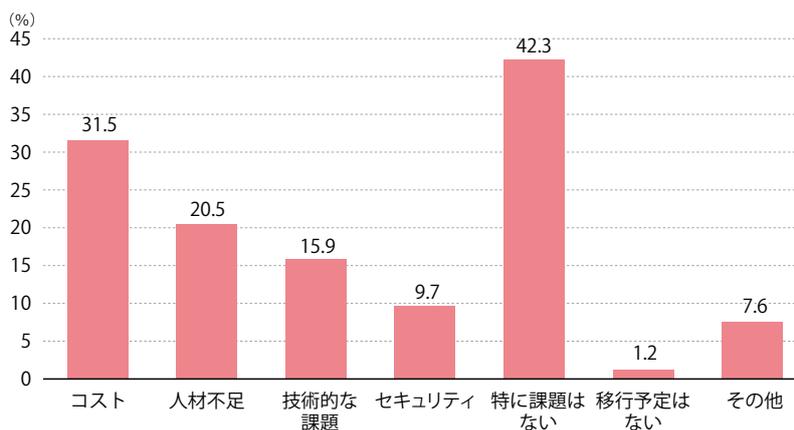


Windows 10 サポート終了が近づく中、調査時点での「全社移行済み」は21.7%。約8割は Windows 11 に移行が完了していない状況ということがわかりました。そのうち、「一部移行済み (38.3%)」「移行中 (22.0%)」「移行計画中 (15.6%)」の約76%は、段階的に Windows 11 への移行を進めています。

サポート終了が近づくにつれて、目当てのPCの新規調達が困難になったり、一度に大量に移行する作業に大きな手間がかかったりするので、スムーズな移行のためにも残り時間を考えて計画的に行うことが求められます。

Windows 11 の移行や運用管理「特に課題なし」が4割、「コスト」が3割

図23 Windows 11 の移行や運用管理における課題



Windows 11 移行や運用管理における課題として、「特に課題はない」が最多の42.3%という結果になりました。次が「コスト (31.5%)」、「人材不足 (20.5%)」、「技術的な課題 (15.9%)」という結果となりました。しかし、上の図22にあるように約8割は移行作業が残っているということになります。多くの企業が大きな課題はなく移行を進めていると回答していますが、本格的な課題にはこれから直面する可能性もあるので注意が必要です。

新たな取り組み1位は「DX」で約5割、2位「Windows 11 移行」、3位「生成AI活用」

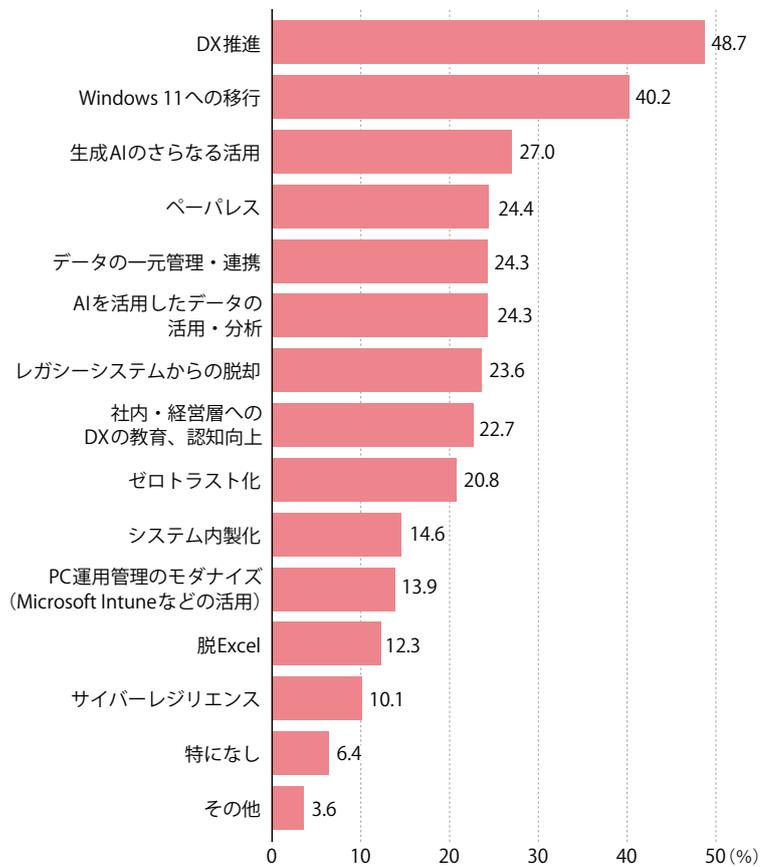
情シスとして新たに取り組んでいることについて聞きました。

最多となったのは「DX推進 (48.7%)」。「2025年の壁」を迎えたことや、競合他社との差別化などに向けて取り組みが本格化してきた企業も多いのではないのでしょうか。ほかにもDX推進に関連する取り組みとして「ペーパーレス (24.4%)」、「レガシーシステムからの脱却 (23.6%)」、「社内・経営層へのDXの教育、認知向上 (22.7%)」、「脱Excel (12.3%)」が挙げられます。

次点となったのが「Windows 11 への移行 (40.2%)」。Windows 11 移行は2025年10月のWindows 10 サポート終了に向けて、今年度の主要な取り組みの1つと位置づける企業が多いことがわかります。

生成AI関連では「生成AIのさらなる活用」が27.0%、「AIを活用したデータの活用・分析」が24.3%となりました。AIの活用を徐々に広げ、具体的な業務に活用するための取り組みに移そうとしていることが考えられます。

図24 情シスとして新たに取り組んでいること (複数回答)



コラム

PC 運用管理のモダナイズとは？
クラウドを活用した Windows 11 時代のデバイス管理

2025年の主要なテーマの1つとなる「Windows 11 への移行」。これに伴い、PC運用管理の形の刷新を初めている企業も増えています。

昨今、リモートワーク利用やSaaS利用が拡大していますが、こうした変化に対応するためにMicrosoftは「Modern Management*」という新たなデバイス管理の考え方を提唱しています。それは従来のオンプレミスからクラウドサービスを活用した新たなデバイス運用管理への変化を示した考え方です。具体的には、Entra IDやIntuneなどのクラウドサービスを活用し、場所を問わず柔軟に管理することです。その効果として、最新の機能が常に享受できる点、セキュリティ対策、運用コスト面の効率化などが挙げられます。この「Modern Management」のような新しい時代のPC管理は「PC運用管理のモダナイズ」とも呼ばれています。今後、管理の効率化に向け取り入れる日本の企業も増えていくものとされています。

*: Microsoft「組織内の Windows デバイスを管理する - 最新の管理に移行する」

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/windows/client-management/manage-windows-10-in-your-organization-modern-management>

関連資料: 「Windows 11 運用効率化ガイドブック ~ PC運用管理モダナイズ (先進化) のススメ ~
URL : <https://go.softcreate.co.jp/windows11-pc-modern-management-guide-2025.html>



おわりに

生成AIが注目されて以降、多くの企業に普及が進みましたが、その変化のスピードは驚くべきものがあります。そしていまや、DX推進に向けて大きな役割を担っているのではないのでしょうか。このように、ますますITや社会の変化のスピードは加速していますが、サイバー攻撃も巧妙化するなど、負の側面にも目を向ける必要があることでしょう。今回のアンケート結果からは、このような時代の変化に対して取り組む情シスの姿が垣間見えたのではないのでしょうか。

大きな変化の流れの中、定点観測や新たな情報を知ることは重要な取り組みです。今後も本資料や情シスレスキュー隊などにより、情シスにとって役立つ情報を提供していく予定です。ぜひ、取り組みの参考にしてみてください。

“Speed & Change”の時代が到来、 不確かなITを「信頼」と「有用性」の観点で捉える

「AIの未来予測に意味はない!？」と感じるほど、近年は世界の変化が加速しています。今まさに“Speed & Change”の時代が到来していると実感しています。

変化を象徴するものの1つが生成AIです。例えば、2023年から2024年にかけて、多くの企業がAIサービスをリリースしました。当初は「本当にビジネスに役立つのか?」「安全か?」と、信頼や保証（ギャランティ）を問う観点で議論が中心でした。しかし、2025年はすでに「AIはどう活用できるのか」という有用性（ユーティリティ）を問う観点に変化していることでしょう。

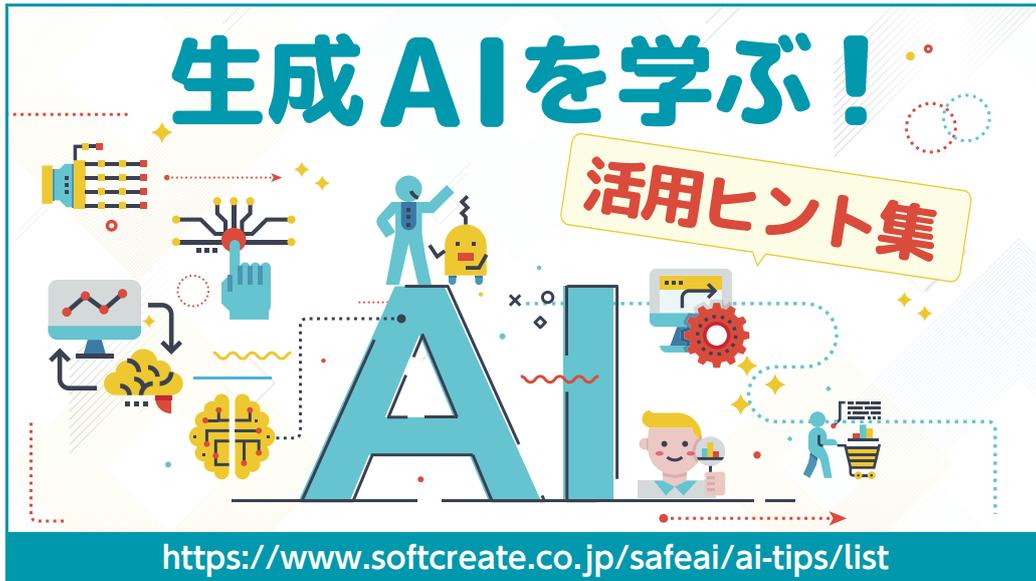
このように、変化が加速する時代の中、不確かなITに対して「ギャランティ（保証）」と「ユーティリティ（有用性）」という2つの観点で捉えていくことが重要になってきました。

これからも多様なITサービスが登場し、情シスはその導入や利用を判断する立場となります。その時に、
「このサービスはギャランティを提供しているのか?」
「このサービスはユーティリティを提供しているのか?」
と、問いかけて判断する目が重要となります。

その時、ソフトクリエイトも「新たなユーティリティを生む存在」として、情シスとともに未来を切り拓く存在でありたいと考えます。



株式会社ソフトクリエイト
代表取締役社長
林 宗治



生成AIの基礎知識を中心に、業務でのAI活用・導入のヒントになる情報を集めた特設サイトです! AIについて初歩から知りたい方も、活用の幅を広げていきたい方もぜひ、参考にしてはいかがでしょうか。

- 掲載内容
- AI基礎知識・活用に関するコラム
 - お役立ち資料
 - AI関連おすすめセミナー案内 など



お問い合わせ・資料請求



株式会社ソフトクリエイト

<https://www.softcreate.co.jp>

mail : rescue@softcreate.co.jp

TEL : 03-3486-1520

資料公開日 2025年4月